

ミシュラン、リグリーブタイヤのプレスセミナーに 大型トラック2台が参加しました

リグリーブタイヤを使ったデモンストレーション及びプレスセミナーが開催されました。
リグリーブタイヤの長寿命だけでなく安全性・低燃費性能の特徴を、現車を使ってアピールすることが
目的で、松岡社長の講演と、当社の2台の車両を使ったタイヤの磨耗実験が行われました。

日時：2010年10月21日（木）

場所：財団法人日本自動車研究所 城里テストコース（通称：JARI）茨城県

実施内容：(1) 転がり抵抗比較テスト 新品タイヤ VS リグリーブタイヤ

32km/hからクラッチを切った状態で惰性走行を行う

(2) ウェットブレーキテスト 磨耗タイヤ VS リグリーブタイヤ

低ミュー路上で40km/hメートルからフルブレーキをかけて制動距離を測定する



■リグリーブタイヤとは■

磨耗したタイヤに溝を掘り直すことで安全性の向上や省エネ走行を実現するタイヤです。世界統一基準でつくられるミシュラントラック・バスタイヤは、リグリーブを実施することを前提に、タイヤの諸性能に影響を与えることなく、アンダートレッド（溝底部とスチールベルト間のトレッドゴム部分）を厚く設計しています。



松岡社長が「ミシュランタイヤによるコストダウン効果」について講演しました。

今回の実験結果からも分かるように、リグリーブタイヤは新品タイヤに比べ磨耗している為転がり抵抗が低く、燃費アップ・コスト削減につながります。また、磨耗タイヤと比べると制動距離が短くなることも実証され、安全性も確保されています。以上のことなどを踏まえ、富士運輸ではミシュランタイヤを積極的に使用しています。



新車注文時のオプション装着が可能
新車の装着タイヤで25万キロを走行。



タイヤの溝が減ったら、社内でリグリーブをし、約5万キロを目安に走行させています。



ミシュランタイヤは通常走行で30万キロの走行が可能
※当社が以前に採用していた他社製タイヤの寿命は現在の約半分だった。

